

平成29年度 学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

新居浜市教育委員会

1 取組の目的

〈実践的な取組を実施する地域名：新居浜市大生院校区〉

小中学校で連携して防災教育を推進するため、「自他の命を大切にし、主体的に行動できるとともに、共助の意識を育てる防災教育」とし、次の4つの視点から重点的に防災教育を実践していく。

- ① 自他の命を守る発達段階に応じた態度(防災リテラシー)の育成
- ② 自他の命を守る発達段階に応じた防災に関する知識や技能の定着
- ③ 身に付けた防災に関する知識や技能を生かした実践力の育成
- ④ 自助から共助への意識の高揚

2 取組の内容

6月9日 防災教育講演会

東日本大震災当時、被災した小学校校長でいらっしゃった古玉校長先生からお話をお聞きした。3月11日の当日のお話、震災日の翌々日の3月13日に停電の中、カーボン紙を使って作成した保護者への学校便りを見せていただいたり、避難所運営・学校再開の具体的な事例を挙げてのお話をしていただいたりした。

〈講 師〉盛岡市立本宮小学校校長 古玉 忠昭氏

〈演 題〉東日本大震災を経験して

～避難所運営・学校再開、そして未来への記憶～

〈参加者〉新居浜市内公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、
特別支援学校の教職員 実践委員



6月18日 大生院小・中学校合同防災訓練

大生院小・中学校が合同で防災訓練を実施した。初期消火訓練・簡易担架作り及び搬送体験、土のう作り、煙体験、給水体験、アルファール米試食など具体的な訓練を体験した。

【煙体験】

建物火災での煙を想定したビニールハウスを使って、煙体験を行った。子どもたちは、ハンカチなどで鼻や口を押えながら、安全に行動した。「煙の中では、前が見えなくて、こわかった。」「できるだけ姿勢を低くして移動しないといけない。」などと感想を述べ、煙体験を通して、建物火災での避難の仕方について体験することができた。



【土のう作り】

子どもたちは、地域の消防団の方から、災害時の土のうが果たす役割や土のうの作り方を聞いた。そして、実際にグループで協力しながら、土のうを作る活動を行った。「土のう作りは大変だったけど、災害の時に役立つといいな。」「自分の家でも土のうを作って準備したい。」など、土のうの大切さを感じることができた。



【給水体験】

災害時、ライフラインが寸断された場合を想定し、ペットボトルを持参して給水車から飲料水を給水する体験を行った。アルファ米での炊き出しや水分補給の際に、その飲料水を飲んだ。子どもたちは、給水体験を通して、「水道と違って、給水車からの水は量が限られているから、大切にしないと。」「給水車は、災害時に大事な水を運んでくれるから、すごいな。」など、飲料水の大切にも気付くことができた。



【応急搬送訓練】

地域の消防団の方から応急搬送を行う際に気を付けなければいけないことを教えていただいた。そして、棒と毛布や、毛布のみを用いて担架を作成し、人を運ぶ体験をした。子どもたちは、災害時に担架が無くても身近なものをを用いて負傷者を運べることを知り、いざという時に使える知識を蓄えておくことの大切さを学んだ。



【心肺蘇生法訓練】

心肺蘇生法の訓練を行った。最初、ぎこちない様子で心肺蘇生を行っていた子どもたちも、訓練を繰り返すにつれて、だんだんと速く強く胸骨圧迫ができるようになった。また、AEDの重要性や使い方を学ぶことで、いざという時に今回学んだことを生かして人命救助を行いたいという意欲を高めることができた。



【炊き出し訓練】

大生院公民館に備蓄しているアルファ米を使った炊き出しを行った。PTAが準備したアルファ米を中学生が容器に一食分ずつつぎ分け、小学生や地域の方々に手渡した。生徒たちは、炊き出し活動を通して、災害時に自分たちにできることがあることに気付くことができた。



8月5日・6日 防災キャンプ

夏休み中の8月5日(土)から6日(日)にチーム大生院(おやじの会)主催の防災キャンプを実施した。子どもたちは、運動場にテントを張って宿泊し、夏休みの楽しい思い出をつくるとともに、防災に関する知識や技能を体験することを目的に開催した。

小・中学生が10名程度のグループとなり、段ボールを使った居住スペース作りを行った。子どもたちは、段ボールを切ったり、張り合わせたりして、グループのメンバーと協力しながら、自分たちの居住スペースを作った。中学生はグループのリーダーとして、アイデアを出したり、小学生の作業を手伝ったりする姿が見られた。子どもたちは、この活動を通して、身近にある段ボールも使い方によって、役立つことに気付くことができた。

災害時には、水道水の供給が止まる可能性が高い。そこで、避難所での生活を想定し、子どもたちが簡易シャワーの設置を行った。実際に簡易シャワーを使ってみると、「少ない水で体を洗うのは、難しかった。」「シャワーができるだけでも助かる。水を大切にしないといけない。」など、子どもたちは、実体験して初めて多くのことを感じる事ができた。

子どもたちは、1泊2日の防災キャンプを通して、小・中学生が協力しながら、共に活動することができた。



9月27日 防災教育講演会

災害の時代をいかに生きるかについて防災教育の専門家である愛媛大学防災情報研究センター特命教授である矢田部龍一先生から御講話をいただいた。

〈講 師〉愛媛大学防災情報研究センター特命教授矢田部龍一氏

〈演 題〉自他の命を守る防災知識と技能

〈参加者〉大生院中学校全校生徒、教職員、実践委員



10月6日 防災集会(大生院中学校)

全校生徒の防災(地震)についての理解を進めるため10月6日(金)4校時に全校集会を行った。まず、防災・減災に関するDVDを視聴させた後、その場で防災力テストを実施した。このテストは、視聴したDVDの内容と防災に関する初歩的な知識を確認するために学校が自作した。

テスト終了後に、解説を加えながら自己採点させた。10点満点の合格者が13名いたのでその場で起立させ、全校生徒で賞賛した。しかし、自他の命を守る防災に関しては、全校生徒全員が10点満点でなければならないこと、今後の防災学習に対してより真剣に自分のこととして取り組まなければならないことなどを指導した。



10月20日 フィールドワーク

防災集会で、全校生徒が「地域防災マップ作り」の目的や方法、予定等を再確認し、10月20日(金)に、フィールドワークを地区ごとに行い、各地区の危険場所を明確にすることにした。活動に移る前に、事前に一人一人が調査し、それをグループで検証しながら、必要な情報をまとめていく作業を行った。フィールドワーク当日は、大生院校区連合自治会長も来校していただき、生徒と共に地域を歩き、詳しい説明をいただいた。「地域が中学生に期待している。」という言葉をしていただき、丁寧に美しく仕上げ、地域の役に立ちたいという気持ちを高めることができた。本校区は、川が流れている平地と切り立った崖が多く、自然災害に弱い箇所がいくつも存在する。また、古い家屋や倒壊の恐れがある建物も少なくない。電燈の数が少なく、夜は歩くだけでも暗くて危ないところがある。このように、普段よく知っている場所でも、改めて災害の危険性があることを感じることもできた生徒が多かった。

地域の方と出会うと、生徒が声を掛け、「危険な場所」や「今まで危険な思いをしたことがあるか」を尋ねるグループもあった。この地域の方は、生徒たちが生まれたころの台風被害が大きかったため、今でも怖いと語っていたそうだ。地域の人とのコミュニケーションは、調査活動はもちろん、「自他の命を守る」という観点からも、防災について考える際に非常に重要な要素であると改めて考えさせられた。



10月27日 防災マップ作り

フィールドワークで得た情報をもとに、地域の人に伝えたい危険箇所や避難場所を吟味して、防災マップ作成に入った。

作成にあたっては、手順をわかりやすくするために、右のようなワークシートを用意した。危険箇所を書きこむだけではなく、自分たちが見た感じたりしたこと大切に、見る人に伝わるような工夫をしようと投げかけた。

マップの中に、避難の仕方や留意点を書き込んでいるグループもあり、丁寧に仕上げる事ができていた。

また、後日全校集会で行う発表に備え、見やすい色や表現の仕方を工夫して作っている生徒もいた。



10月31日 先進地視察

東日本大震災の被災地である岩手県宮古市立田老第一中学校を視察した。震災から6年以上が経過しているが、被害の爪あとを目の当たりにして、改めて災害の恐ろしさを実感するとともに、これからの防災教育について考えを深める視察となった。



12月1日 防災教育参観日

児童や保護者の防災意識を高めるために、平成29年12月1日に防災教育参観日を行った。1年生の学級活動「いのちをまもろう」では、今までの学習を振り返り、地震が起こった時の対応について学んだ。2年生の生活科「災害が起きたら」では、震災を体験した子どもの詩や本の読み聞かせを通して、災害に備えて、日頃の準備や訓練の大切さを確かめた。3年生の総合的な学習の時間「備えチェック」では、地震災害の被害を防ぐために、家庭でできることを考えた。4年生の総合的な学習の時間「非常持ち出し袋を見直そう」では、非常持ち出し袋の大切さを知り、家族といっしょに非常時に必要な物について話し合うことができた。5年生の総合的な学習の時間「いざという時、どうする?～自分の家編～」では、家で地震にあった時の危険について知り、状況に応じた退避行動について気付くことができた。6年生の総合的な学習の時間「私たちにできること」では、ゲストティーチャーの方の話を聞き、避難所生活の苦勞を感じることができた。そして、自分たちが避難所で何ができるかを考えた。学年の発達段階に応じて、防災意識を高める有意義な場となった。



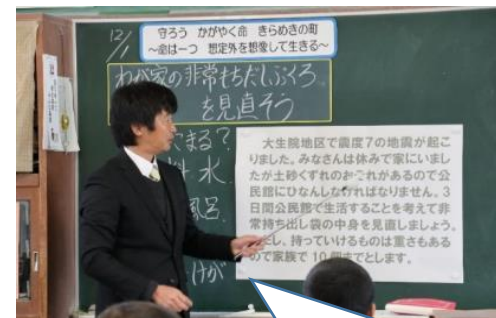
1年：いのちをまもろう



2年：災害が起きたら



3年：備えチェック



4年：非常持ち出し袋を見直そう



5年：いざというときどうする？



6年：私たちにできること

12月1日 防災教育講演会

慶應義塾大学環境情報学部の大木聖子准教授をお迎えし、大生院小学校児童全員と保護者を対象に「自分の命は自分で守る」という演題で、ご講演をいただいた。

日本各地で様々な災害が起こる中で、この愛媛県新居浜市も南海トラフ巨大地震や中央構造線に伴う直下型地震がいつ起きてもおかしくないという危機意識をもつことが大切である。児童には、学校や家庭、屋外など、どこにいてもその場の状況を判断し、危険物や場所から自分の命を守ることができる力を身に付けさせなければならない。そこで、大木准教授は本校の教室や理科室など、様々な場所で児童が活動している写真を提示し、その場にある危険物や危険箇所気付かせた。そして、身の回りにある危険から自分の命を守るために、「だんごむしのポーズ」「おさるのポーズ」「あらいぐまのポーズ」の退避行動を教えていただいた。さらに、地震が起こった際には、いかなる場所においても、「3つのない」（落ちてこない、倒れてこない、移動してこない）の場所へ退避行動し自分の命を守ることを確認した。



1月26日 成果発表会

大生院小学校4年生の授業では、ショート訓練を取り入れた実践的な授業を公開した。また、大生院中学校2年生の授業でも4コマ漫画を取り入れ、避難所運営を想定した授業を公開した。どちらもアクティブ・ラーニングの考えを、根底に据えた授業であった。全体会では、大生院小中学校の取組についてパワーポイントを使って発表した。その後、授業、発表について研究協議を行った。最後は矢田部龍一先生、高橋治郎先生から御指導・御助言いただいた。



〈年間を通しての取組〉

年間を通した取組として、1階の掲示板における防災コーナーの設置、また学校便りや学校ホームページなどを通して、家庭・地域への防災教育に関する情報を発信・啓発を行った。



院中プライド 大宮中学校より
学校の教育目標
「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」

平成29年6月号

「防災」について子どもたちと共に考えてみましょう。

平成29年度がスタートし、2ヵ月が経ちました。保護者の皆様や地域の皆様には、本校生徒の健全育成に關しまして多大なご協力、ご支援をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。

さて、熊本地震から1年が過ぎようとしています。熊本では昨年4月14日深夜に震度7（マグニチュード6.5）、そして16日深夜には震度7（マグニチュード7.4）という前々日上回る大きな地震が立て続けに起こりました。その他にも大きな余震が相次ぎました。14日の震度7の揺れが被害で、さらに大きな被害をもたらすことと恐れられる人が多かったでしょうが、死者は熊本県で合計50人の死亡（直撃死）が確認され、間接死を加えると200人を超えたと伝えられています。避難者は最多で18万人を超ったそうです。

災害はいつも想像をはるかに超えて私たちに襲いかかり、大きな被害を発生していきます。災害に学ぶ取組をもち、何より大生院の子どもたちの命を守るためにどのようなことができるのか、保護者や地域の皆様と共に真剣に考えたいと思います。

大生院小・中学校は、文部科学省指定の事業である「学校防災教育モデル地域研究事業」の指定を受け、実践研究に取り組めます。取組の一つとして、先般ご案内いたしました小中合同防災訓練が6月18日（日）に開催されます。内容は以下の通りです。

【6月18日（日）小中合同防災訓練の内容】

時 間	小学1年	小学2年	小学3年
9:30～	集合・開会式		
9:50～10:05	土曜休校		
10:15～10:30	避難訓練	AED体験	引き渡し準備（α班）
10:35～10:50	座 席 整 頓		
11:00～	引き出し（α班）の試食・給水車からの給水体験		
12:00～12:30	小・中学生 引き渡し訓練 （保護者のお迎えをよろしくお願いいたします。）		

当校は「学校へ何こうだい」になっております。特に、今回は下校時に引き渡し訓練を予定しております。新居浜市の小中学校では、震度5弱以上の地震が発生したときは引き渡しを行うことになっております。死傷・生後や地域の防災避難を高めるためにも、そして何より、いざというときのために、緊張感をもった訓練にしたいと思っております。ご多用とは存じますが、保護者並びに地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

3 取組の成果

- 避難訓練、防災キャンプ、小中合同防災訓練学習などの実践や講演会、各教科での防災教育を通し、自他の命を大切にすることが育った。
- 避難訓練の見直しや引き渡し訓練の見直しなどを行い、児童、生徒が発達段階に応じて主体的に行動できるような手だてを行うことができた。
- 防災マップの配布や学校便り、ホームページからの情報発信で、地域へ啓発活動を行い、小中や地域との連携により双方向のつながりができ、「地域を守る！」という共助の意識が芽生えてきた。

4 今後の課題

- 新居浜市の子どもたちが自他の命を大切に、主体的に行動できるとともに、その主体的な行動によって、地域のために役立ったという思いが自尊感情をも高める実践的な防災教育の推進に努めていく。
- 小中合同の防災管理マニュアルの策定をはじめ、共助の意識を高められるよう小中の連携を軸に、地域との連携をより一層深めていかなければならない。